

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4190200263		
法人名	有限会社ケアサポート・KSN		
事業所名	グループホームおうち・緑山		
所在地	佐賀県唐津市相知町相知533-28		
自己評価作成日	平成26年10月 8日	評価結果市町村受理日	平成27年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年11月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

高台に施設が建っている事もあり、春は桜、夏は田植え後の緑広がる田んぼ、町内の花火大会、秋は黄金の稲穂、町内の祭囃子に山笠巡行、冬は屋根に光る霜や雪等を目で見て五感で感じる事ができる、自然と、地域資源に囲まれた施設で、二か月に一度は季節感のある行事を行い、家庭的雰囲気の中で笑顔あふれ、ほのぼのと、のんびりとした生活を送って頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域の幹線道から山間部への道路を進んで行った奥の高台に、周囲の団地に溶け込み建っている。両隣に同じグループの事業所が並んで建っており、避難訓練や行事など連携しながら行われている。事業所の行事や日常的な中で、地域住民との交流が行われている。職員は、理念に基づいた、基本姿勢や目標を立て意識作りを行い、入居者の穏やかな暮らしが支援できるよう努めている。周囲の山間部の木々には季節感が溢れ、四季の彩りも鮮やかに、自然との一体感を感じる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員の目の届く場所に理念、基本姿勢、事業所の目標を掲示しているため、職員は理念、基本姿勢、目標を念頭に置き業務に当たっている。	理念を職員トイレ等に貼って絶えず確認できる状況にしたり、年1回の研修時に確認を行ったりして、理念や、基本理念に通ずる10項目の基本姿勢、事業所の目標を踏まえた実践に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近隣の方が訪問され利用者の方と一緒に体操をしたり、家庭で作った漬け物や古新聞などの差し入れもして頂いている。 ・施設行事への参加してもらい利用者の方と一緒に楽しまれている。	入居者の日課の体操に、近隣住民の参加があり、差し入れをもらうこともある。また、町の民生委員の「認知症見守り隊」との交流の機会も作られている。主に、近隣の少数の住民の方との交流となっている。	近隣の方のみならず、地域住民との交流が増えるよう、機会作りに取り組まれることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域で作ってある、認知症見守り隊の年に4回の勉強会に利用者の方と一緒に参加依頼があり参加予定である。 ・施設見学は常時、受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議の内容は議事録を職員が、いつでも閲覧できるようにしている。 ・月に一度の事業所職員会議にて、口頭でも会議内容の説明、報告を行っている。	会議では、入居者の状況や研修、防災訓練等の報告があり、家族からの活発な意見が出ている。会議録を作成し、毎月の職員会議で報告され、実践に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・地域包括支援センターの職員や市職員へ支援方法、問題等の相談を行っている。 ・支所に訪問したり電話等にて相談等も行っており問題解決に取り組んでいる。	支援内容等を相談したり、市からの入所問合せで、短期の利用や緊急な場合にも対応したりする等、緊密な連携作りにも努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・勉強会を行い身体拘束について職員の理解、意識統一もあり身体拘束を行わないケアを行っている。	認知症研修時には「拘束なし」への理解を深め、マニュアルを作成して、事業所の玄関施錠はしない等、事業所全体で「身体拘束しない支援」を実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待について勉強会にて行い、職員は理解を深め、ケアに当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見人を検討している利用者があり、現在、対応中にて司法書士、Dr、家庭裁判所等と話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結時には必ず家族に対し十分に説明を行い説明後には内容について疑問や質問受け付けている。また締結後にも質問等を受け付けていることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議への参加を呼びかけ会議の場にて要望や、意見等を伺っている。 ・家族来所時には管理者が必ず、お声掛けをして話を伺っている。	家族への状況報告が毎月行われ、家族の訪問時には話し易い雰囲気作りに努められている。また、運営推進会議でも家族からの意見の聞き取りが行われ、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月の職員会議にて職員の意見、要望を聞き、運営会議にて報告し話し合い、改善に努めている。また日常的にも、職員が意見等を言いやすい雰囲気作りに努めている。	月1回の職員会議では活発な意見が出る等、職員が意見の言える雰囲気作りに努められ、日常的にも、意見を受けられている。出た意見を運営会議で検討されて、事業所運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に1回の個人面談と必要時の個人面談を行い要望、希望を聞き取り改善できるよう努めており職場環境、意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月に一度、施設内勉強会を実施している。 ・職員個々に応じた施設外研修への参加も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・月に一度、市内のGH連絡会の集まりがあり情報交換、相談等を行い連携の強化、サービスの向上を図っている。 またGH連絡会の勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用開始前に家族、本人との面談を行い要望や不安を聞き担当者会議を開催し、安心して利用開始が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・相談時に家族の要望や不安を受け止め共感し解消できるように努め、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の要望や必要なニーズをプランに反映させ実行し支援を行っている。本人の状況を踏まえ、その都度、職員同士で意見交換を行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・掃除などの生活リハビリを通じ出来る事をしてもらい、一方的な関係でなく共に協力して生活していると感じられる支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者様の少しの変化に気付き状況を面会時や、毎月のお便りで伝え家族を交えて関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・いつでも馴染みの人に会えるように面会や施設でのイベント案内を行い、馴染みの方達との交流関係継続の支援を行っている。	日頃の会話から馴染みの場所を把握して、くんち・コスモス見学など馴染みの場所へ訪問したり、馴染みの床屋の利用などが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士が上手くコミュニケーションが取れるように努力しているが、個々の利用者を把握するようにし利用者同士が上手くコミュニケーションが取れる様に職員が間に入り関わり合い支え合う支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や施設転所された後も面会や電話にて、家族、本人と交流を持ち必要時には相談も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の生活歴など把握し日頃から希望、不安等がないか聞いている。思いを伝えるのが困難な方には家族からの情報、本人の状態、様子を見て検討している。	家族の訪問時や、日頃の会話を通して入居者の希望や意向の聞き取りを行い、朝の申し送り時に職員で共有され、支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、本人と話をすることで以前の生活歴を知り現在のサービスに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状況や心身状態を記録に残し、情報の共有を行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望に添うように担当者会議やケア会議にて職員同士の意見交換を行い提案を取り入れ作成している。	毎月のチェック表の活用や、家族訪問時の聞き取りを実施し、出た問題点を職員会議や担当者会議に上げ、支援計画へ反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で個人記録、実行表に目を通し情報を共有しながら、意見交換、状態把握し見直しが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対し、提案できるか責任者、職員、家族、本人と検討し出来る限り提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域資源の情報提供の依頼を近隣、地域住民にしており情報提供があった際には有効に活用している。またスーパーや美容室、タクシー等も活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との情報交換、連携もとれており家族の協力も得られ納得できる病院受診支援ができています。	入居時に主治医の要望を入居者や家族に聞かれ、主治医による訪問診療が実施されている。医療機関受診の時は、家族と協力しながら受診支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との医療面での相談もでき状況把握もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合、迅速に利用者の日々の状態を報告し病院側との連絡調整できている。 また治療の計画、退院後のケア、退院の時期についても適宜、話し合いができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一年に一度は家族と話し合いができています。 重度化、終末期の家族とは、その都度、状況報告を行い意向を確認している。医療機関とも情報の共有を行い連携を図っている。	入居契約時の本人・家族に対する説明や意向確認を行い、重度化や急変時にもその都度意向を確認され、意向に沿った支援に努められている。毎年終末期の研修を行い、これまでに看取りのケースはないが、終末期に関する事業所方針を職員と確認されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設外研修への参加 施設外研修参加職員による施設内勉強会の実施 消防署から急変時、緊急時の対応について勉強会の実施予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民と地域消防団に参加してもらい訓練を行う予定を計画しており現在、話し合いを行っている。災害時マニュアルを使用し勉強会にて説明を行っている。	原発事故や風水害のマニュアルも作成され、事業所前の広いスペースに避難場所を確保されている。また、年2回夜間想定火災訓練を併設事業所と合同で実施されている。事業所内のコンセント掃除を行うなど、火災予防の対策も講じられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体介護ではプライバシーの確保できているが時折、羞恥に関わる言葉が聞かれ職員間で意識統一を図っている。	年1回の職員研修を実施され、羞恥心や誇りを傷つけない意識を保たれている。トイレ介助時にも一人ひとりの人格を尊重した言葉かけが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の難しい方でも「はい」「いや」の分かりやすい質問にて問いかけ、なるべく本人に決めてもらうように働きかけているが時として職員が決めてしまうこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立している方は本人のペースで過ごしてもらっているが介助が必要な方は、その時々で希望に沿った支援ができていない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立してある方は自分流の身だしなみを楽しんでいる。介助が必要な方には同じ衣類にならないように職員が配慮し楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付けや配膳、下膳を行っている。季節ごとに利用者の嗜好調査を行い季節の料理を提供している。	季節ごとの嗜好調査アンケートを実施して献立作りに活かされている。一緒に食事の準備をしたり、庭での食事や外食など、入居者が食事を楽しめるように努められている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じた食事形態での食事の提供、水分提供が出来ている。栄養バランス水分量の一日に必要な分は確保できていない利用者はチェック表を作り把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方でも、3日に一度は口腔内の状態観察を行っている。介助が必要な方には本人の調子や、体調に合わせ口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿測等を行い、その方の排泄パターンを把握し、その方に応じた時間でのトイレ誘導を行い排泄の自立支援に努めている。	トイレでの排泄を基本とされ、排泄チェック表を活用した、一人ひとりに応じたトイレ誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、野菜を多く取り入れた食事、個々の腹部運動、マッサージや便秘薬の調整を行っている。便秘についての勉強会いる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決まっているが、入浴の順番や本人の希望等での曜日の入れ替えにて添えるように支援している。	週3回入浴が行われ、足浴も実施されている。入浴日以外でも、入浴は対応可能で、時間帯や順番など、本人の希望に沿った入浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし活動的に過ごしてもらい夜、安眠できるように支援している。必要時にはDrに相談し服薬調整、専門医への受診など行い安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬を把握し、変化や改善等の観察を行い記録に残している。個々の内服薬の内容をカルテにファイルし誰もが確認できるように共有している。またNs理解の基、職員へ指導助言している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に応じた掃き掃除、拭き掃除洗濯物たたみ、調理手伝い、買い物の付き添いを一緒に行い役割を持ってもらいイベントや外気浴等にて楽しみある生活を送ってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴は天候良好時には必ず行っている。できる方と、できない方がいるが、近隣への買い物、外食、ドライブには出かけている。	同じグループ事業所間の協力もあり、地域の景勝地へのドライブ、近くのレストランやスーパーへの外出などが行われている。毎日の散歩や外気浴も行われ、家族による外出支援も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少人数ではいるが、低金を自己管理されている方は訪問販売や買い物に出かけ嗜好物品、必要物品の購入をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、その都度、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感、食事準備(音、温度、香り)等、良い方の刺激になっており「もうご飯？」等、自ら理解されるような言葉が聞かれる。	風通しが良く、夏場は窓を開放して過ごせる。冬場は床暖房がされ暖かく、壁が白色の明るい雰囲気の中で、入居者の好みの音楽が流れながら、1日が心地よく過ごせるよう配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室を有効に活用し安心して過ごせる居場所作り努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用されていた物品(家具類)は自由に持ち込んでもらい写真等、思い出の品を飾り居心地の良い空間作りに努めている。	居室には馴染みの物の持ち込みができ、収納に便利な作り棚もある。また、折り紙等の創作物の飾り付けが行われ、居心地の良い居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブル、椅子、手すりの高さ調整を工夫している。また張り紙等で場所の確認ができるようにしている。		